

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月8日(水)

### 《健康的な緊張感を持ちましょう》

今日の福音(ヨハネ 17・11b-19)は皆様よくご存じだと思います。イエス様が愛する弟子達を前に、ご自分は御言葉通りに去らなければならない状態で、特別な祈りを捧げた内容です。この福音で中心になっているメッセージは二つあると思います。一つは『わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。』もう一つは『わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。』弟子達が喜びのうちに生きること、共に、色々な悪の勢力から守られること。この二つを切に御父に願ったわけです。ここで話されている弟子達とは、イエス様が選んだ12人だけではなく、広い意味で全ての信者らを弟子と言っていることを私達は分かっています。

今日ミサが始まる前に読んでいた本で、このような文が目にとまりました。アメリカのコーネル大学の心理学科で実験したという一つのことを皆様に紹介します。カエルを皆様ご存知ですよね。そのカエルを45度ぐらいのお湯を器に入れて、その中に入れておきます。どうなったと思いますか。カエルは直ぐ飛び出して逃げたそうです。「熱い！」と感じたのでしょうか。逆に普通の冷たい水にカエルを入れてゆっくり温度を上げたそうです。そうするとカエルは死んでしまったそうです。

昔は悪いことと、いいことがはっきり見えました。これが善か悪かが感覚的に分かりました。しかし、今の時代は何が善か、何が悪かをわきまえにくくなっています。例えば、子供達がパソコンの中で自然にインターネットを使って、見ては健康的に良くないビデオ画面も見られる時代です。学校に行ったら誰でも見ているからと言いながら。私の子供時代を思い出してみますと、誰かがちょっとそのような雑誌を持ってきたら、震えながら本当にドキドキしながら覗き込んで見た記憶があります。そして先生に見つかったら当たり前罰を受けたわけです。今はそうではありません。テレビとかマスメディアも自然に流しています。自分も知らないうちにそういう世界に慣れてしまっているのです。

色々ありますが、今回の福島での原発事故もそうではないでしょうか。初めて放射能が問題にされた時、本当に心配しましたね。しかし今はどうですか。皆様どうでもいいよという気持ちになっているのではないですか。目に見えないから、本当かという気持ちもあると思います。これは結構深刻な状態であることを、ある意味で日本が一番分からないかも知れません。今の状態は、福島や仙台には人が居てはいけないと思うのですが、仮設住宅とかがそこに建てられています。汚れた土地は100年以上使えないでしょう。しかしみんな平気。

さあ皆様、ある意味で私達は識別しにくい時代に生きているかも知れません。カエルのように「まだいいじゃない、いいじゃない」として、私達も罪を犯しながら取り返しのつかないところまで行ってしまおう。そんな生き方をしているかも知れません。なぜイエス様が主の祈りの終わりに『誘惑におちいらせず』という祈りをなされたか、その意味も深く感じ取っていただきたいのです。

私達が自分でも知らないうちに気軽に行ってしまうことが、もしかして罪になるかも知れないのです。ですから、いつも健康的な緊張感を持ち、これは正しいことか正しくないことかを意識すべきだと思います。一番誘惑に負けてしまうのは、先程申し上げたように、皆がやっているからこれは大丈夫ではないかと思ってしまうことです。そういうところがあります。誰もが平気でやっちゃっているから“これがそんなに悪いことか”と“大丈夫じゃないの”と思ってしまう危険さの中で、私達が生きていることを意識するべきではないかと思います。

ありがとうございました。